

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第4回姫路市教育振興基本計画審議会
2 開催日時	令和元年10月3日（木曜日） 14時00分～15時45分
3 開催場所	姫路市防災センター 3階 第1・2会議室
4 出席者	（出席者）姫路市教育振興基本計画審議会委員13名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、生涯学習部長、総務課長、教育企画課長、教職員課長、学校指導課長、健康教育課長、人権教育課長、教育研修課長、育成支援課長、生涯学習課長、文化財課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人1名
6 次第	1 開 会 2 挨拶 3 議 事 姫路市教育振興基本計画案（案）について 4 連絡事項 5 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第4回姫路市教育振興基本計画審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>本日は、御多用のところ、御出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただき、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。</p> <p>さて、前回、前々回には、学校教育分野、社会教育分野に分けて、計画体系のほか、姫路市教育振興基本計画における施策・事業・指標について御審議いただいた。</p> <p>その中で、特に、指標については、「指標の目標値を設定しておく必要がある。」、「成果を数字で挙げることは、数字が一人歩きするというリスクはあるが、要因分析がしやすい。」といった御意見をいただいた。</p> <p>そこで、指標の設定も含め基本計画（案）について、引き続き、更に議論を深めていただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様におかれては、それぞれのお立場からの知見などを基に、様々な御意見をいただき、活発な審議をお願いできればと考えている。</p> <p>よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>
会長	<p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするが良いか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>
会長	<p>(第3回会議録の確認)</p> <p>前回の会議録を確認する。</p> <p>委員の皆様には、事前に第3回審議会の会議録（案）をお送りしているが、これについて修正等、何か意見はあるか。</p> <p>なお、事前に委員から会議録の一部について修正連絡があったので、本日の資料として、修正後の会議録を配付している。</p>

	<p>(異議なし)</p> <p>会議録として決定し、市政情報センターやホームページで公開する。</p> <p>次に、今後の審議会の流れについて、事務局から提案がある。</p>
事務局	<p>今後の審議会の流れについて</p> <p>パブリック・コメントの開催時期について、答申後に変更すること等を提案</p>
会長	<p>事務局提案で良いか</p> <p>(異議なし)</p> <p>では、今後は提案のあった流れで進める。</p>
会長	<p>3 議事</p> <p>今日は指標について審議したい。私から前回に指標の見直しや目標値の設定をお願いした。これについて皆さんから意見をいただきたい。</p> <p>ボリュームがあるので、基本的政策ごとに三つに分けて進めていきたい。</p>
事務局	<p>議事 姫路市教育振興基本計画案 (案)</p> <p>基本的政策1「魅力ある学校教育の推進」の指標について説明</p>
会長	<p>ただ今、事務局から基本的政策1「魅力ある学校教育の推進」の指標について説明があったが、指標や目標値について、皆様から忌憚のない御意見、また御質問等をいただきたい。</p>
委員	<p>施策1-1の指標は分かりやすかったが、施策1-3の指標「平成16年の体力水準に達している項目の割合」について、平成16年と比較しての指標になっているが、その考え方について教えてほしい。</p>
事務局	<p>昭和39年から平成10年までが旧体力診断テストだった。平成11年から8種目の新しい体力テストに変わった。以降しばらくの間は、持久走について、男子1500m 女子1000m 又はシャトルランのどちらかを学校が選択していた。完全に新しい体力テストに変わってから、姫路市として記録が残っているもので一番古いものが平成16年なので、</p>

委員	<p>それを基準とした。</p> <p>学力は全国、県との比較であり、体力は過去の市の数値との比較であるが、その整合性はどうか。毎年比較するのであれば、また、進捗状況を把握するのであれば、学力と同様に、体力テストも国、県と比較する方が分かりやすいのかなと思う。</p>
事務局	<p>子供たちが将来にわたって健康で安全な生活を送るための基礎を培うというところに重きを置いて、そのための取組として、各学校で、運動のコツ、つまずきのポイントを指導している。このことを考慮した結果、姫路市の過去データと比べて改善されているという方が良いのではないかと考えている。当初、全国や県との比較も考えたが、一部の学年で、市は当該年度のデータ、県は1年前のデータ、全国は2年前のデータなので、比較する母体の年が違うこともあり、学年によっても数値が前後しているのが現状である。それも踏まえて、市の過去の状況と比較する方が良いと判断した。</p>
会長	<p>年度が違うので、国や県との直接比較は難しいということだろうか。</p>
事務局	<p>体力という捉え方については、色々な捉え方があり、風邪を引かない体力も防衛体力という体力の一部である。しかし表に出てくるのはスポーツテストの数値だけになる。中には、全国大会に出る選手が他（の自治体）と比べてどうなのかといえ、そこまで（差があるわけ）ではない。例えば 50m 走など平均で 0.1 秒数値が低ければ、それで体力が無いと言われるのは苦しいかなと思う。決して子供の体力を軽く見ているわけではなく、各学校で取り組んだ結果、体力が向上するというのが一番良いのではないかなと思う。</p>
委員	<p>数値をどうこういうつもりではないが、全体の目標の中で、学力テストの方は、他にも総合的に判断できるよう色々な指標を増やしているが、一方、体力の方は数値が一人歩きするという懸念があるが、同じような基準でいくと、体力だけでなく、色々な指標を増やせるのであれば、そのように総合的に評価する方法があるとなれば、学力と体力の指標を合わせた方が良いのではないかな。学力と体力で基準が違うというのは分かりにくいということは否めないと思う。</p>

会長	委員の意見に説得力があるように思うので、またご検討ください。
委員	<p>政策2のタイトルの文言「子供の学びを支える・・・」は「児童生徒」にすればどうか。</p> <p>質問だが、57 ページ、小中一貫教育の推進の中で、九つの目標と18の指標はどんなことを指しているのか教えてほしい。</p>
事務局	九つの目標と18の指標とは姫路市の進める小中一貫教育として取り組んでいる。「進級・進学の間差の軽減」「学力の向上」「人間関係力の育成」「教育活動の土台としての教職員の意識改革・地域連携」に合計九つの目標と一つの目標ごとに二つの指標（計18指標）を掲げたものである。
会長	子供と児童生徒についてはどうか。
事務局	子供という表記について、厳密には就学前の子供は幼児、小学生は児童、中学生、高校生、大学生は生徒、学生となるが、キーワードとしてできるだけ短い言葉で分かりやすい表現にしたいと考え、子供という形で表記した。
委員	気になるので教えてほしいが、54 ページ、「『豊かな心』の育成」の指標にある「学校や地域でいろいろな人とかかわりをもつことは、大切なことだと思うか」どうかよりも、実際に子供自身が色々な人とかかわりを持っているかどうかを聞くような項目の方が良いのではないかと思うがいかがか。
会長	考え方よりも、実際にやっているかどうかの方がいいのではないかということか、それについて事務局の考えはどうか。
事務局	こちらの指標項目は、従来からこの形で姫路市で児童生徒の意識調査並びに学校教職員の意識調査を行ってきており、このままの指標とさせていただきたい。
会長	以前のものと比較しなければいけない、つまりどの程度伸びたかという関係上、変更するのが難しいことで、実際にやっているかどうかを聞いた方が良いでしょうが、比

較ということから難しいということだろう。

委員

実績値と目標値のところ、実績値は大体が 60～80%、高いもので 90%となっており、それにプラスいくらかを目標値にすることは、全体としてはそれで良いと思うが、項目の一つ一つを見ていくと、数値が非常に低いものがある。そのようなものでも、大体実績値に目標値を 2 %程度高くしている。それぞれの項目を見ると、目標値は 100%が当然ではないかと思うものがいくつかある。そういうものは他のものと比べて一段と努力しなければならないという捉え方をして、目標値を少し上げる必要があると思うが、どうか。例えば 66 ページの「定時退勤日」の週 1 回完全実施校の割合は実績値 17.3%に対して目標値は 50%にしている。目標値としては上がっており、目標値として実現可能な数値を挙げているんだらうけれども、働き方改革の趣旨から言うと、これは理想値がいいのではないかと思う。もう少し上げるような工夫が欲しい。

63 ページの指標 「学校に、何でも相談できる先生がいると答える児童生徒の割合」も、小学生が 63%、中学生 56%であり、これをもう少し上げていくという目標値であるが、中学生が割と低い、感覚では分かるが、理想値からするともう少し上げればいいのではないか。

52 ページの指標「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表したと答える児童生徒の割合」の中学生と「授業で、自分で調べたことを整理したりまとめたりしていると答える児童生徒の割合」の中学生も、目標値が上がる工夫が必要かなと思う。

会長

52 ページの指標「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表したと答える児童生徒の割合」と「授業で、自分で調べたことを整理したりまとめたりしていると答える児童生徒の割合」が、実績値も低い目標値も低いとなっているが、その理由を教えてください。

事務局

この指標は全国学力・学習状況調査によるものである。点数だけが一人歩きしてはいけないということから、指標項目に入れたものである。その中で、主体的・対話的で深い学びの実現が学力の向上につながるということが、今年度の全国学力・学習状況調査のクロス集計でも出ている。この数値的なところは、姫路市の値と、全国、県との値に大きな差はないということもある。理想値として数値を上げられたらいいの

だが、実績値は経年でみてもなかなか上がってこないところはある。各学校で先生方が色々工夫されているところだが、実態をみて、この値を目指していきたいと考えている。

会長

確かに、全国的にも高い数値ではない。経年変化でも数値が上がりにくいということで、理由は分かったが、素人目でみると、意欲がない数値には見える。計画は5年間でもある。おっしゃることは分かるが、現状維持に見えるので、無理して高い数値にする必要はないが、検討はしてほしい。

次に、63 ページの「学校に、何でも相談できる先生がいると答える児童生徒の割合」についてはいかがか。

事務局

数値が低いのは、「何でも相談できる」ということで、例えばスクールソーシャルワーカーやカウンセラーといった色々な関わり手があるので、先生に限定しているというところで、このような値になっていると分析していて、経年を見て、この目標値になっている。

会長

では 66 ページの指標「「定時退勤日」の週1回完全実施校の割合」についてはいかがか。

事務局

100%を目指すべきとは考えているが、それに関して、23 ページの上段をご覧くださいと、これまでは「「定時退勤日」の週1回完全・ほぼ実施校の割合」を挙げていた。完全実施数とほぼ実施校の二つを合わせると平成27年度は71%、平成30年度は91.3%で、年々上がってきており、目標としていた90%を超えることもできた。これを引き続き指標にして目標値を95%とすることも考えられた。しかし、完全実施校のだけの割合を見ると、低い数値になっている。平成27年度10%、平成30年度17%と少しずつ上がってきているが、完全実施となるとなかなか上がらない。しかし完全に実施してほしいと考えるので、今年度数値が25%になると仮定して、来年度は30%というように5%ずつ上げる目標値を設定した。たった5%ずつと思われるかもしれないが、やはり完全実施となると色々な要素が絡み合ってくるので難しい。50%にまでなれば100%が見えてくるのではないかということで、緩やかな増加ではあるが、50%を目標にした。

委員	教育委員会が働き方改革の指導をすることによって 100%に近い数字になるのではないかと。教育委員会が学校間で格差や不公平感が出ないように、しっかり指導していくことが大切だと思う。
事務局	教育委員会としても 100%に近づけたいと考えている。目標値を 10%ずつあげて 100%と書くことはできるが、なかなか難しいところもあるので、もう少し検討したいと思う。
会長	この学校教育について、まだ意見があると思うが、最後に全体で聞くことにして、基本的政策 2 に移りたい。
事務局	議事 姫路市教育振興基本計画案（案） 基本的政策 2 「いきいきとした生涯学習社会の推進」の指標について 説明
会長	基本的政策 2 についていかがか。
委員	73 ページ「多様な学習機会の充実」の指標「児童人口（0～12 歳）1 人あたり児童書貸出冊数」は、何度も借りる子がいれば、数値があがるので、児童生徒が公共図書館を利用したことがあるかないかと聞いた方が良いのではないかと。 75 ページ「人権教育の推進」の指標「校区人権教育学習会に参加してよかったと答える参加者の割合」よりも、校区人権教育学習の機会を得ている成人の割合を調べるというのはどうだろうか。
事務局	児童の貸出冊数は、どれだけの子供が借りているのかを分析するのは統計上煩雑になってくる。また、もっと魅力あるものを発信して、たくさんの人に来てもらわなければならないということは分かるが、目標としては、どれだけ利用してもらっているか、累積としてどれだけ出しているかを計上しているので、できればこのままの指標でいきたいと考えている。
会長	2 点目については。

事務局	<p>校区人権は、前は参加者人数を指標にしていたが、これは延べ人数になる。また、交流事業には運動会等も含むため、指標となるのかということで、今年度から校区人権教育学習会に参加して良かったと答える参加者の割合に変更した。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>73 ページの指標について、公民館講座の参加者人数から実施回数に変えたのはどういふことか。</p>
事務局	<p>参加者人数は人口減が予想される中、どうしても減っていくことが考えられるので、沢山の講座を実施してもらって、より多くの方の参加機会を増やすことを指標に挙げた。</p>
委員	<p>75 ページ 3-3-①「校区人権教育・啓発の推進」について、私も以前関係していたが、同和対策に係る法規なども、勉強する人に良いと思う。</p>
事務局	<p>御意見を参考にさせていただく。</p>
会長	<p>77 ページの指標「野外活動施設利用者総数」の目標値が大きく減る理由と、指標「青少年センター利用者数」は増えるが、76 ページの指標「子育て学習への保護者参加者数」の目標値がマイナスとなっている理由について説明をしてほしい。</p>
事務局	<p>指標「野外活動施設利用者総数」の目標値が大幅に減るのは、グリーンステーション鹿ヶ壺が令和2年度から市長部局に移管することになっており、グリーンステーション鹿ヶ壺の利用者は平成30年度44,200人いたため、これに見合う数値を減じて目標値としている。また、青少年センター利用者数は53,278人で、年によって多い少ないはあるが、昨年度は利用者数がかかなり少ない状況であった。平成26～平成30年度を平均すると、およそ64,000人余りなので、これに青少年人口の減少を考慮してこの数字を出している。</p>
	<p>76 ページの子育て教室については、来年度から実施方法を大幅に見直す予定にしており、そのため、来年度の実績値の見込みも立てにくいところがある。そのた</p>

	<p>め、具体的な数字は挙げずに令和2年度実績値を基礎として、計画期間の人口の減少割合をかけている。</p>
会長	<p>グリーンステーション鹿ヶ壺が移管ということだが、市民には管轄がどこという区別はつかない。今後、社会教育の部分が市長部局に移管されることもあると思う。そうなるとうなりにくくなる。データも縦割りということであれば、難しいということも理解するが、課題もあると思う。</p>
事務局	<p>議事 姫路市教育振興基本計画案（案）</p> <p>基本的政策3「歴史文化の継承と市民文化の醸成」の指標について説明</p>
会長	<p>基本的政策3についていかがか。</p>
委員	<p>数値目標ではないが、前回言ったことは反映されている。それ以外のことで、例えば文化や芸術はその市だけで完結するものではなく、やはり色々な広がりがあると思う。日本遺産はこれまで単体の文化財を指定していたが、最近では、北前船、巡礼道など、段々と広域的になり、地域と連携しながら人を呼ぼうという風に戦略転換をしている。これからは姫路市だけでは収まらないケースが出てくるだろう。具体的にどうということではないが、色々な説明文に「他地域との連携を図りながら」「他地域の文化財との関連性を深めながら」といった文言をどこかに入れると、これからの文化財行政が広がりを見せて進展するのではないかと常々思っていたので、抽象的な話だが説明の中にどこかに一つでも入れる必要があるかなと思った。このことは、これからの文化財政策として重要なポイントかと思う。</p>
会長	<p>また考慮していただければと思う。</p>
委員	<p>歴史文化の継承と市民文化の醸成というところで、小、中学生に、姫路の良さ、姫路の歴史、姫路の産業について、学校教育の場で、教材や副読本というものは盛んに作って配ってもらっている。しかし、教える人と時間がないということで、なかなか進展していないので、例えば姫路文化検定とか、姫路検定というようなものに参画してもらって姫路のことを良く知ってもらおうということが将来の人口流出の防止にもつ</p>

ながるかもしれないと思う。文化等の継承については、学校教育の場との連携していただくといいのかなと思う。

直接関係ないが、ものづくり大学校の体験館は、要因は色々あると聞いているが、姫路市の利用が少ない。ものづくりの現場における人材の育成ということで、中学生を中心に知ってほしいと思う。あるいは、トライやる・ウィークも校区内の企業だけでなく、姫路市内の企業を良く知ってもらおうという観点で、また色々相談しながら進めていきたいと思うので、これからもよろしくお願ひしたい。

委員

今も話が出たが、若者の人口流出が大きな課題と思う。灘や魚吹のような大きい祭りのところでさえも屋台の担い手も減ってきているし、屋台を上げることすらできなくなっている地域も出てきている状況の中で、83 ページ 施策5-3「伝統文化・歴史的文書の継承と活用」では、目的に祭りなど各地域の伝統行事に触れられているが、事業としては、書写の里・美術工芸館や姫路はりこといったものだし、77 ページでも青少年の交流と書かれている中で、青少年センターの活用に留まる。一方で、明石市は、人口が増える取組をどんどんやって、人口を留めるところか増えている。教育の振興計画の中でだけでは表しにくく、市長部局で頑張るところがあるのだろうが、そういった姿勢がなかなか感じられない。姫路に留まらせるとか、一旦都会に出ても帰ってくる魅力あるまちづくりをしていくということをどこかに表せないかと思う。大きすぎてなかなか難しいと思うがいかがだろうか。

教育長

次期計画では、62 ページの1-7-⑥「郷土教育の推進」のところ。ここで、今まで色々なところで行っていた取組を集めて、郷土教育を推進したいと考えている。どの小学校や中学校でもやっていると思うが、それをきちんと取り上げて、これからも推進していきたいので御理解をお願いしたい。

委員

郷土教育は良いことだと思うが、その学習を誰が教えるのかということがあると思う。我々の子供の頃は、科目に関わらず色々な先生が興味を持っている地域のことを教えてくれた。そういうことが頭に残っていくし、郷土教育を深めていく原動力になるんじゃないかと思う。副読本の作成は手段なので当然するべきだと思うが、それとは別に、先生方が教えられるような仕組みを要望としてお伝えしておきたいと思う。

事務局	<p>おっしゃられたように、副読本は社会の教科に特化して作られているものではない。例えば、道徳の時間に、地域のフィールドワークをする中で、地域の財産を自分たちの手で資料として作成して授業で活用している。まさしく地域のことを先生方が伝えている。このように色々な形で地域のことを伝えていければと思っている。</p>
会長	<p>兵庫県の教職員は地域内、市内での異動が基本となっているので、そこは非常に強みだと思う。姫路市の学校園の先生は姫路市出身の先生が多い。だから地域を良く知っているし、愛着もあるし、地域を語れるという意味でやりやすいのではないかと思う。</p>
委員	<p>市で地域夢プランを実施して、情報収集しているが、全体的によく集めたなと思う。先生方にも目を通していただいて、興味あるところがあれば、そういうところからヒントが得られると思うので、活用していただければありがたいと思う。</p>
委員	<p>87 ページ、第 5 章の「2 進行管理等」に出てくる PDCA の文言と計画推進のイメージ図の PDCA の文言を揃えるといいのではないかな。</p> <p>61 ページの指標「将来の夢や目標を持っていると答える生徒の割合」の目標が 75% なのがさみしい。90%~100%あってほしいなと思う。</p> <p>青少年センターも、受付をしたことがあるが、来る利用者はほとんどが勉強に来ている。それで利用者が多いと思う。</p>
会長	<p>87 ページの文言は確かに揃えた方が良いと思う。</p> <p>61 ページの指標「将来の夢や目標を持っていると答える生徒の割合」の目標値が 75% ということについて、事務局いかがか。</p>
事務局	<p>「将来の夢や目標を持っていると答える生徒の割合」は、全国、県と同様に推移が低調である。</p>
会長	<p>日本の子供たちは他の国の子供たちに比べてこの数値が低い。社会的、経済的に日本より環境が良くない国の子供でも、もっと数値が高かったりする。これは日本社会全体の問題で、右肩下がりでも更に人口縮小するけれども希望のある社会になるという</p>

	<p>ことが示されないと、教育の力だけでは何ともならないところだと思う。我々も頑張らなければならない。</p>
委員	<p>70 ページの指標「学習支援や安心・安全の確保につながる取組など、地域の子供のために、保護者や地域住民と学校が連携・協働した様々な活動を行っている」と答える教職員の割合」について、教職員だけでなく、保護者や地域住民に聞く項目は設けないのか。</p>
事務局	<p>教育の施策として地域との協働が謳われており、学校長を中心として、地域との関わりの中で学校教育活動を進めていきたいということが経営方針にも入っている。それが教職員全てにわたって協働が進められているかという指標になっている。</p>
会長	<p>教職員だけではなくて、保護者や学校評議員に聞いてもいいのではないかとということだと思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>指標は従来からの指標で、姫路市の教職員、児童生徒への意識調査と、全国学力・学習状況調査から取っている。</p>
会長	<p>保護者や学校評議員に市全体として聞いて、データを出すというのは難しいか。</p>
事務局	<p>各学校に共通評価項目として実施をお願いするとなると、新たな負担にもなるので難しいと思う。</p>
会長	<p>私もデータを出すとなると難しいと思う。学校によって、評議員や地域の関わりが全く違うので市としての平均を出すのは難しいと思う。</p>
委員	<p>なぜか。</p>
事務局	<p>全市で実施するとなると集約を含めて時間がとてもかかる。また、それぞれの学校評価では保護者や地域等の評価を受けているが、全ての学校がこの項目を評価項目として挙げているわけではないので難しいと考える。</p>

委員	<p>そのために PTA が助けるべきではないかと思うが、この教育基本計画には載せないけれども別の事業か何かで数値を取っているのか。それも仕事の量が多いから難しいとなるのか。</p>
事務局	<p>各学校とも学校評価を行う上で似たような内容を取っていると思う。ただ、市全体で新たに共通項目として取ることは難しいと思う。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
会長	<p>52 ページの学力調査の結果、中学校の数学Aが唯一全国平均以上だが、どういう分析をされているか。</p>
事務局	<p>学力としてそういう結果が出ているわけだが、点数が良かったら、学力がついているのかというと、先ほど説明した他の指標として挙げている意識の部分で見ると、全国に比べて低いというところがある。私たちも点数と意識という部分をどう考えるかとなったときに、やはり授業を大事にしていかなければ意識も上がってこないし、点数にもつながらないのではないかと考えている。所管している学力向上推進懇話会で話し合ったことを活かしながら施策として取り組んでいて、点数だけを見ての分析というよりも、全体を見て相乗効果で上がってこないかということで取組を進めている。</p>
会長	<p>小学校より中学校の方が良いのはまだ救いでしょうね。 それでは、本日出た様々な意見をまた検討して反映していただければと思う。 次回5回目で反映してもらったものをまた検討して大体収まっていくと思う。</p>
会長	<p>今日の議事はこれで終了したい。 進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>4 連絡事項 それでは、次回の日程について、お知らせする。 次回、第5回審議会を10月30日に開催したいと考えている。</p>

事務局	<p>次回は計画案全体について意見を伺いたい。</p> <p>なお、次回、やむなく欠席となってしまった場合については、会議までに事務局まで御意見などをいただきたい。</p> <p>5 閉 会</p> <p>以上で本日の審議会を終了する。</p>
-----	--